

# 令和3年度LGBT等の性の多様性について知り、考えるイベント企画・運営業務 開催報告

～トランスジェンダーのドキュメンタリー映画から知る～

開催日時： 2021年11月24日 18:30-20:00

開催方法： ZOOM Webinarにてオンライン配信

視聴人数： 102人

企画内容：  
・ご挨拶  
・トランスジェンダーのドキュメンタリー映画『I Am Here -私たちはともに生きている-』上映  
・浅沼監督と三橋先生のトークショー  
・質疑応答

登壇者： 浅沼智也 氏（映画館：FTMトランスジェンダー）  
三橋順子 氏（日本初のMTFトランスジェンダーの大学教員。  
\*現在は明治大学、都留文科大学、関東学院大学などの非常勤講師）



## トランスジェンダーのドキュメンタリー映画

### 『I Am Here ～私たちはともに生きている～』とは

東京ドキュメンタリー映画祭2020 短編部門 グランプリ受賞作品。

2004年より日本でも性別が変更できるGID特例法が施行されました。しかし、適用要件の高さから、性別変更を望んでも要件を満たすことができずにいる当事者が少なからずいます。戸籍上の性別を変更できないことで、精神的な苦痛を生じたり、社会生活をする上で偏見や差別にさらされたりすることもあります。

性に悩む様々な当事者達の想いや、監督自身の家族との関係やなど、小さな視点から当事者が日常生活で直面する複雑な問題点を浮き彫りにする映画です。



## イベントの目的

映画の上映とともに、監督の浅沼智也氏、日本初のトランスジェンダーの大学教員である三橋順子氏をゲストに迎え、就業や職場、学校、日常生活で当事者が直面しがちな困難などについてお話いただき、性の多様性についての理解や共感を深めていただくことを目的としています。

## トークショー内容

### 映画製作にあたっての背景

私は現在、看護師として働いています。もともと映画が好きでしたが、トランスジェンダーの人権にフォーカスした映画が少ないことに気づき、多様なトランスジェンダーを可視化する映画を製作したくなり、他の映画監督にアドバイスを頂き、このドキュメンタリーを完成させました。当事者の監督が当事者の視点で制作した映画は、22年ぶりです。多数のトランスジェンダーの方に出演していただいておりますが、全てを網羅しているわけではない事だけご承知おきください。（浅沼監督）

### トランスジェンダーの人権について

SNSでのトランスジェンダー差別発言が日常化している中、三重県が性の多様性に関する条例を制定した事は先進的で素晴らしい事です。これが他の地域、そして国の法律を変えることになるかもしれません。どういう人権問題があるかを可視化する事は大事です。例えば、性別を変更した後もアウティングをされ続け、職場で働きづらくなったり、地方になれば親や近所の人などとの関係性などが影響して、命に係わる問題にも発生する可能性があります。したがって、カミングアウトの強制やアウティングはしてはいけないということが明文化されていることが大事だと思います。（浅沼監督、三橋先生）

### 視聴者からのご質問

#### ○思春期の頃などに性別違和を感じた時、つらかったことや、一番困ったことは何ですか？そして身近な親や周囲の大人達にどのような配慮やサポートをしてほしかったのでしょうか？

情報リソースが少なかったため、自分が何者かわからないなか、自分の存在を認めてもらえなかったことが辛かったです。また、自分の性自認で生活できなかったことや体が女性化していくことも嫌でした。周囲の方にはジェンダーを強制されることがストレスでした。少なくとも多様な人がいることは分かってほしかったです。（浅沼監督）

#### ○私はトランスジェンダー女性です。望む性別で生きたいと思いますが手術代が高額なため、パートタイムで手術費用をためることも出来ず困っています。

現在はそのような手術にはほとんど保険が適用になっていないようです。公的な機関から貸付けができる制度があると良いのですが。（三橋先生）  
大変な状況ということは十分察しますが、協力いただける方々に支援金を募ることも手段の一つだと思います。（浅沼監督）

#### ○医学で性同一性障害の治療をして本人の望む性にすることはできるが、本人が幸せになれるのは社会の受容にかかっていると聞きました。当事者として実感されることはありますか？

その通りだと思います。本人がやりがいを持っていける、「差別がない形」の社会になってくることが大事だと思います。（三橋先生）  
性別変更した後も、体調や見た目の問題で苦労しているので、見た目の差別やジェンダー批判がない世の中になってほしいです。（浅沼監督）

## 視聴者からの感想（抜粋）

・自分は当事者です。映画に出演されたたくさんのトランスジェンダーの方の言葉を聴いて、元気をもらおうと同時に、差別や偏見の現実を改めて感じました。性別変更にかかる未成年の子がいないという要件を直ちに撤廃されることを望みますし、何かできることがあれば行動したいと思いました。ひとりひとりがありのまま生きていける社会、を自分自身も社会の一員として作りたいと思いました。

・これからもこういった機会があれば受講したいと思います。当事者の方々の話をお聞きして、まずは三重県の条例が県内各市町に浸透していくように強く思いました。行政としても課題の共有ができるように努めていただきたいと願います。

・トランスジェンダーと言っても、いろんな人のいろんな考えがあることを知りました。その人がその人らしく生きることが、当たり前になればと強く思いました。

・当事者からの意見を聞ける、たいへんよい機会となりました。映画を視聴できたことは有意義でしたが、浅沼さん、三橋さんのお話をうかがう時間がもっとあればと思いました。